

# I 単位制訓練（モジュール訓練）導入の目的といきさつ

## 1 目 的

昭和53年1月26日付訓発第14号、労働省職業訓練局長（現職業能力開発局長）通達「単位制訓練（モジュール訓練）の実施について」（以下53年訓発第14号通達という。）によれば、次のように述べられている。

- ① 離転職者を対象とする職業訓練は、単に訓練規模の拡大を図るのみでなく、その発生に対応し、機動的、弾力的に実施することが重要となっている。
- ② すなわち、離転職者を随時に訓練校へ受け入れるとともに、労働市場の状況等を考慮しつつ、雇用可能な程度の一定水準の技能を的確に付与するための職業訓練とする必要がある。
- ③ このため、能力再開発訓練について、単位制訓練方式の導入を図るとともに、入校時期の多様化を図るため、「単位制訓練（モジュール訓練）方式による職業訓練実施要領」を定め、53年度から実施する。

このように、単位制訓練（モジュール訓練）は、公共職業訓練施設を対象に、53年4月から、職業転換課程の能力再開発訓練に導入されることとなった。

## 2 いきさつ

これより前、52年7月に、労働省職業訓練局では、単位制訓練（モジュール訓練）の導入に備えて、「単位制訓練（モジュール訓練）用教科編成指導要領作成委員会」を設け、溶接、板金、配管、縫製の4訓練科について検討が行われ、各訓練科ごとの教科編成指導要領が作成された。

その結果、53年訓発第14号通達をもって、その実施が図られることとなった。

53年度は、「単位制訓練（モジュール訓練）研究指定校」方式によって、職業訓練局長の指定を受けた15校（都県立10校、事業団立5校）が、上記の4訓練科について、能力再開発訓練の中で、試行的に実施した。

54年度以降は、本格実施に移り、毎年度4～5訓練科（職種）が、労働省職業訓練局長によって指定され、昭和61年2月現在、27訓練科（職種）となっている。

なお、単位制訓練（モジュール訓練）用教科編成指導要領は、53年度以降、職業訓練研究センターでその細目がつくられ、職業訓練局（現職業能力開発局）から、単位制訓練用教科編成指導要領として、関係機関に示達されている。

### 3. 論理的背景

社会のニーズに応える形でモジュール訓練が行政の速やかな対応によって導入された経緯は上述したとおりである。

それは、この訓練の考え方と手法が正しい訓練システムの開発と適切な活用とによるならば、行動能力形成理論あるいは学習理論の正当な具体化でもあることを意味しているのである。そこで、簡単にモジュール訓練の基盤となっている理論を記し、本書の内容を理解する一助にしたい。

一般に仕事をした、あるいは課業を遂行したということは、一連の全体的行動を人間がとったということである。つまり、仕事は構造をもっていて、その構造は実は人間にとって行動の単位に分解して身に付けている能力を要素として成り立っている。したがって、人間の行動能力形成で重要なことは、単位行動を的確にとれるように習得することと、仕事を与えられるといった具体の場で単位行動を構造づけて最適な行動をとれる能力を身に付けることである。

そのような行動能力を形成するための訓練あるいは学習とは何かといえ、学習者にとっては行動の場に置かれるということ、指導者にとっては学習の場を提供するということである。いわゆる教えたり、教わったりす

ることではなく、具体の場の中で学習者が学習行動をすることが教育訓練である。しかも、学習がいかなる学習形態において行われようとも、すべて学習者が一人一人個別に納得しながら進められているのが学習のほんとうの姿である。

こうした学習を可能にするためには、訓練システムが必要である。システムを構成する要素を簡単に述べると、次のとおりである。

第1は、システムの基本になる設計図である。つまり、目標とする課業がどのような行動の単位から成り立っているのか、そしてそれぞれの単位は行動としてみた場合、基礎的単一なものから複合されたものまでというぐあいに、どのような連関があるのか、さらに行動の全体構造はどうなっているのかがシステムの基本設計図である。

第2は、この基本設計図に沿って作られる学習の場である。

第3は、ソフト、ハードの両方の教材である。

① ソフトの教材では、

・ 行動の指示

学習の進め方（進行）

学習のやり方（方法）

設問・課題（刺激と反応）

結果の照合（診断と評価）

・ 学習内容、解説

② ハードの教材では、

・ いわゆる行動に直接に影響を与えるモノとしての教材

・ さらに教材を提示するための教具

・ そして自己診断をした学習者に対して総合評価をする指導者および評価のプログラム

少なくとも以上のようなものを用意することによって学習は可能になる。

モジュール訓練体系は、上記に概略した学習理論の基礎に立ってシステム化された訓練方法であることに深い意義がある。